



2015.7月 能登島

イルカの基礎知識 移動②

前号からの続き、イルカの移動について後編です。ミナミハンドウイルカは日本の沿岸にいくつか生息地があります。そして地球規模では、北半球の北限が日本列島とされています。現在は、北限が上昇傾向で新潟以北でも発見情報があるようです。定住型のイルカたちも、いろいろな環境要因や、なんらかの人的影響などにより、生息地を拡大したり、あるいは大きな移動をすることがあります。

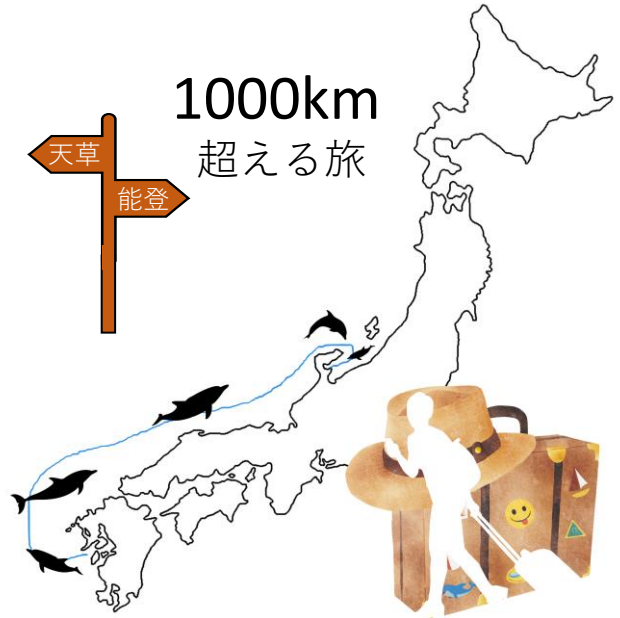
たとえば、東京都御蔵島に根付いているイルカたちが、利島（距離約75km）や、静岡県富戸沖（約100km）和歌山県串本沖（約350km）で確認されています。一時的なことか、そのまま定住するのは、わかりません。日本沿岸においてこのような長距離の移動が少なくない頻度で起きているようです。

さて、天草のイルカも移住が確認されている個体の報告があります。

2001年の秋ごろに、石川県の能登島周辺（七尾市）に2頭のイルカが住みつきました。その後調査が行われ、このイルカたちが千キロ以上離れた天草からやってきたことがわかりました。対馬海流にのって旅をしたのでしょうか。

何かネガティブな理由で、天草を出ることになったのか。あるいは、ちょっと牛深のほうへ遊びに行ったつもりが、勢いでなんとなくどろんどろん泳いでしまった。また旅の途中で、様々な場所を見た結果、能登島に定住することを決めた理由はなんだったのか。これ以上北上したら、寒すぎるとか？

それから20年以上が経ち、現在このイルカたちのグループは十数頭になりました。ふるさと天草を懐かしむことはあるのかなあ。



天草イルカ調査室

天草漁協 通詞島沖イルカ環境実態調査事業



Amakusa Iruka Lab SDGs

記事や活動についてのお問い合わせ

- Facebook: 天草イルカラボ
- Instagram: amakusa_dolphin
- Search: 検索